

講演テーマ

「生きづらさに寄り添う」

～“助けて”が言えない若者に、

私たちはどう応えるか～

近年、若者の間で自傷行為やオーバードーズ(過量服薬)が深刻な社会問題となっています。これらの行動は、単なる「問題行動」ではなく、本人が発する切実なSOSであることを、私たちはどれだけ理解できているでしょうか。

若者の「助けて」の声にどう応えるか――。

支援者、教育者、保護者、そして地域社会のすべての方にとって、深い学びと気づきの機会となる講演です。ぜひご参加ください。



松本 俊彦 氏

<講師プロフィール>

1993年佐賀医科大学卒業。横浜市立大学医学部附属病院にて初期臨床研修終了後、国立横浜病院精神科、神奈川県立精神医療センター、横浜市立大学医学部附属病院精神科に勤務。2004年、国立精神・神経センター精神保健研究所司法精神医学研究部室長に就任。その後、2010年に同研究所自殺予防総合対策センター副センター長を経て、2015年より現職。2017年より国立精神・神経医療研究センター病院薬物依存症センター センター長兼務。

日本社会精神医学会理事、日本アルコール・アディクション医学会理事、日本学術会議アディクション分科会特任委員。

主著に、「自分を傷つけずにはいられない」(講談社)、「薬物依存症」(筑摩書房)、「誰がために医師はある―クスリとヒトの現代論(みすず書房：第70回日本エッセイスト・クラブ賞)」、「世界一やさしい依存症入門」(河出書房新社)、「酒をやめられない文学研究者とタバコをやめられない精神科医が本気で語り明かした依存症の話」(横道誠との共著：大田出版)、「身近な薬物のはなし～タバコ・カフェイン・酒・くすり」(岩波書店)など多数。

日時

令和7年 9 月 14 日 (日)

14:00～16:00 (開場 13:15～)

会場

札幌市医師会館 5階 大ホール

札幌市中央区大通西19丁目 (地下鉄東西線 西18丁目駅 1番出口すぐ)

※駐車場のご用意はございません。公共交通機関でお越しになるか、お車の際は近隣駐車場をご利用ください。

定員

200名 (申込必須・先着順)

参加無料

※定員となり次第、お申し込みを締め切らせていただきます。

講師

松本 俊彦 氏

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部 部長
同センター病院 薬物依存症センター センター長

申し込み

参加ご希望の方は、右記の二次元コードまたは下記から申込フォームにアクセスしていただき、必要事項をご入力の上、お申し込みください。
<https://forms.gle/pdSe9KMjMUAZqEAYA>

